

令和３年度秋田県健康づくり審議会の資料等に関する御意見・御質問に係る回答

番号	資料名称・頁・項目（委員名）	御意見・御質問内容	回答内容
1	資料３ １１０頁 成果指標⑧ がん検診（胃・大腸・肺・子宮頸・乳）の受診率（大山則昭委員）	２０２０年の実績値が、４．３～１５．２％と前年より低下している現状で、２０２２年以降の目標値が５０％と非常に高い値が設定されている。この目標値を達成するには、がん検診受診率の向上を目指した積極的な対策が必要である。	県では、市町村が実施しているがん検診について、罹患率の高まる年齢層の検診受診にかかる自己負担額の無料化又は軽減、個別受診勧奨・再勧奨（コール・リコール）の促進のほか、かかりつけ医等を通じた受診勧奨や、ICTを活用した健（検）診予約システムの導入支援等、がん検診の受診促進に資する各種支援を行ってきました。 特に、新型コロナウイルス感染症による受診控え等の影響により、令和２年度の受診率が大きく落ち込んだことから、今後、ステージが進んだ状態でがんが発見される方が増加するなどの影響が懸念されます。コロナ禍における健（検）診受診に関する必要性や安全性についての正しい知識の普及啓発など、受診率の回復に向けた取組を推進してまいります。
2	資料４ ２頁 ３（２） 地域健康づくり人材活性化事業 ① 健康長寿推進員の活動支援（佐藤寿美委員）	＜質問＞ ① 県では、健康長寿推進員によるどのような活動を、支援対象として想定しているのか。 ② 健康寿命日本一を実現するためには、県民一人一人のライフステージに応じたアプローチを継続していくことが必要であると考え。健康長寿推進員が主なターゲットとする層は限定しているのか。 （例えば、年代、職域に属していない人等） ③ 高齢者の生きがい・健康づくりのため、地域では交流サロン等の取組が行われているが、こうした地域の既存の取組と健康長寿推進員の活動を、有効に連携させる方を想定しているか。 ＜意見＞ ① 地域において住民が主体となって展開されている様々な取組との役割分担や連携のあり方を、明らかにしていただきたい。 市町村の保健担当と地域福祉担当、健康長寿推進員、市町村社会福祉協議会が情報を共有し連携することにより、地域におけるサロン活動のスケジュールの中に健康長寿推進員の活動を取り込む等の手法も検討してみてもどうか。 健康長寿推進員が活動する場面が増えると考え。	＜質問への回答＞ ①これまで育成してきた人材（ＯＢ・ＯＧ含む。）に対して健康づくりに関する最新情報を提供する研修、勉強会等のフォローアップや、人材が参加して活動に取り組むことのできる健康づくりイベントの開催、他市町村等との交流による健康づくり活動などを対象事業として想定しておりますが、健康長寿推進員が参加して健康づくりに資する活動を行い得るものの実施に係る事業については、幅広く対象としたいと考えております。 ②健康づくりの重要性については、年代や職域に関わらず広く啓発していく必要があるため、ターゲット層については特に限定せずに幅広く活動していただきたいと考えております。 ③本事業を活用した健康づくりイベントに交流サロンなど地域の既存の取組を巻き込んでいくことで、地域ぐるみでの健康づくりに関する取組を活性化させていきたいと考えております。 ＜意見への回答＞ ①関係機関の連携の強化により各市町村が育成した健康長寿推進員がより効果的に活躍できるよう、委員の提案の方法を含め、情報共有等において、県と市町村との関わりを強化してまいります。
3	資料４ ２頁 ３（２） 地域健康づくり人材活性化事業 ② 健康づくり地域マスターの育成（齋藤カツ子委員）	地域マスターの育成と共に活動がなかなか知らされることがなく、もっと活動の場の提供が必要と思います。	令和３年度は健康づくり地域マスターの基礎（任命）研修、専門研修およびマスターの派遣事業を実施してまいりました。 今後は、マスターの活動を当課運営サイト「秋田健」での掲載等で他のマスターや各市町村等へお知らせするとともに、また各市町村等に対して派遣事業などでマスターを活用できることをより認知いただけるように、周知方法について今後検討してまいります。

番号	資料名称・頁・項目（委員名）	御意見・御質問内容	回答内容
4	資料4 3頁 (4) 食からの健康応援事業 ② 県民の食意識向上事業 (齋藤カツ子委員)	「新・減塩音頭」がなかなかむずかしく活動に生かされずらいです。	令和3年度は公募により「新・減塩音頭」を制作し、音源と動画を公開して自由に視聴・ダウンロードできる環境を整えるとともに、CDを制作してスーパーや関係団体、コミュニティ放送等で提供することにより普及を図りました。 今年度はライフステージに応じた普及啓発として、高齢者向けDVDを制作する他、高校生によるイベント等での普及と動画による普及を行う予定としておりますが、関係団体が活動に生かしやすい啓発方法について、今後検討してまいります。
5	資料4 4頁 3(2) がん検診受診率向上推進事業 (大山則昭委員)	令和4年度のがん検診受診率向上推進事業として、年齢層を限定した検診自己負担額軽減の経費助成事業が提案されている。がん検診受診率50%の目標達成には、経費助成の適応となる年齢層の拡大を考慮すべきである。さらに、がん検診受診率の向上には、コール・リコールによる受診勧奨が有効であるため、コール・リコールの更なる普及を検討すべきであると考えます。	県では、市町村が実施しているがん検診について、罹患率の高まる年齢層の検診受診にかかる自己負担額の無料化又は軽減、個別受診勧奨・再勧奨（コール・リコール）の促進のほか、かかりつけ医等を通じた受診勧奨や、ICTを活用した健（検）診予約システムの導入支援等、がん検診の受診促進に資する各種支援を行ってきました。 補助事業の効果検証を通じ、現在実施している受診者の自己負担額の無料化又は軽減にかかる対象年齢や、市町村が実施するコール・リコール及び精検受診勧奨が効果的に行われるための方策について今後検討してまいります。
6	資料4 5頁 3(6) 「Go To健（検）診！」促進事業 (佐藤寿美委員)	② コロナ禍が長期化する中で、新たにがんが発見される患者数が減少していると報じられている。健（検）診受診による早期発見、早期治療のメリットを強調する等、広報・啓発の内容を工夫することにより、健（検）診受診率の向上にご尽力いただきたい。	新型コロナウイルス感染症による受診控え等の影響により、健（検）診受診率は大きく落ち込んでおり、今後ステージが進んだ状態でがんが発見される方が増加するといった影響が懸念されます。コロナ禍における健（検）診受診に関する必要性や安全性についての正しい知識の普及啓発を行い、秋田県が実施するがん検診の受診促進に関する取組を併せて紹介することで、健（検）診受診率の向上に尽力してまいります。
7	資料4 10頁 3(7) 秋田大学自殺予防センター事業 ① SNSを活用した高齢者支援 (佐藤寿美委員)	<p><質問></p> <p>① この事業は、モデル的に実施するものと考えてるが、効果の検証は、いつ頃実施する予定としているのか。 また、効果の有無を判断する基準をどのように想定しているか。</p> <p>② 学生をはじめとする若い世代との交流は、高齢者の生きがいづくり、自殺予防に効果があると想像するが、このような取組を、全県でどのように展開しようと考えているのか。</p> <p><意見></p> <p>① 高齢者の生きがいづくり、健康づくりを目的として地域の住民が主体的に実施している取組に関する情報を、市町村や公民館、市町村社会福祉協議会などが共有する仕組みを構築し、そうした情報を地域の高齢者に対して多様なルートから発信して、高齢者の積極的な参加を呼び掛けていただきたい。 また、報道機関の協力を得て、実際の活動を紹介する情報提供コーナーを設け、高齢者の参加意欲を高めることとしてはどうか。 孤立対策、自殺予防対策として、大きな効果が期待できると考える。</p>	<p><質問への回答></p> <p>①この事業の効果は、参加した高齢者と大学生のメンタルヘルスの改善（心理検査）と満足感等（アンケート）を指標にして事業開始年度（令和2年後半）からデータを収集しております。令和4年度に効果の有無を判断するための研究を行う予定です。</p> <p>②学生と高齢者が交流することにより、生きがいづくりやコミュニケーションの幅が広がり、結果、自殺予防に繋がると考えております。この事業を全県で展開するために、令和3年度は高齢者が集まる場（介護支援ボランティア研修会等）でのPRや秋田魁新聞での募集を行ってきました。 また市町村の保健師に呼びかけて高齢者を紹介してもらったりしてきました。今後もこのような方法で全県に広がっていかと考えています。また令和4年度については、社会教育施設を拠点したつながりを構築することも検討してまいります。</p> <p><意見への回答></p> <p>①自殺を防ぐ取り組み等について、民・学・官・報と情報共有し、高齢者の積極的な参加を呼びかけておりますが、市町村等とは特にきめ細やかな体制整備を推進してまいります。 また、報道機関による自殺予防対策に関する情報発信は大きな効果が期待できると考えておりますので、啓発方法について今後検討してまいります。</p>